

事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			通常の活動室以外にも、活動内容によっては他の貸室を利用して、療育の幅を広げている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○			医療的ケア、肢体不自由児童が多く、移動時には人手が足りなくなるため、多機能事業所の利点を活かし連携を図っている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			建物全体がバリアフリー化されている。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○			朝礼、夕礼、支援会議から課題と改善策を常に話し合っている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			アンケート等による意向調査を基に行事やプログラムなどを検討して、取り入れている。また、面談等でも意向の聴取をしている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			現在、法人のホームページ上で公開する準備をしている。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	第三者委員は設置済み。今後は、保護者の意見も聞いて最大限に、前向きに取り組んでいく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			年2回の法人研修と専門的な外部研修を受講している。
適切な 支援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			アセスメントを行い、児童と保護者の面談を行っている。その際に、学校や家庭での様子や課題などの情報収集に努め、計画を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○			アセスメントシートを活用し、利用児の状況把握に努めている。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○			毎月会議にて話し合いにて、テーマ・ねらい・目的からタイムテーブルを決定している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○			テーマに沿った活動、個々の課題への取り組みを実施。七夕、ハロウィン等季節プログラムも実施。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○			平日と長期休暇ではサービス提供時間の違いから、課題設定だけでなく、外出、散歩、買い物、調理等できめ細やかに設定している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			利用時間の中で、個別の時間での課題、集団での課題を抽出して計画を作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○			朝礼の実施。体調等の変化や様子などを考慮して適宜打ち合わせを実施。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○			送迎時などの保護者との会話内容を伝達して情報共有を図っている。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○			個別支援計画の項目ごとに記録を残している。	

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	○			6ヶ月に1回のモニタリング、面談を実施。また状態像の変化等に応じて、その都度モニタリング面談を実施。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	○			活動の中で個々の課題に合わせた支援を行っている。
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○			担当職員を参画させている。
	㉑	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っているか	○			保護者を通じて、学校の予定等は把握している。その為、変則的な下校時間についても調整して対応している。
	㉒	医療的ケアが必要な子供を受入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	○			医ケア要綱に則り実施。保護者から申請手続き、主治医の指示書、病院での研修を経ている。実施した医療的ケアについては、毎月紙面で主治医に報告している。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○		直接、問い合わせ等は行ってはいないが保護者を通じて成育歴も含め幼児期の情報を収集している。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	○			適時提供している。計画相談が中心になって移行会議も実施。卒業前に卒業児の様子を見学に来た際は、情報提供している。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		定期通院、訓練等の様子は保護者より聴取している。専門機関との直接的な事業所から直接問い合わせることはしておらず、必要な時には保護者を通じて行う。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		近隣に児童クラブや児童館がないので、交流の機会はないが、図書館には出かけている。
	㉗	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			市内の放デイ連絡会に、事業所として参加している。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノート使用している。また、送迎時に活動の様子などを伝えている。必要に応じて面談も実施。適時、電話でも共通理解を図っている。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	○			積極的にコミュニケーションを図り、会話の中から困りごとや悩み事を拾い助言や情報提供に努めている。相談支援事業所に繋げたりしている。
保護者への説明責任等	㉚	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約書、重要事項説明書に基づいて、面談で分かりやすく、丁寧な説明をしている。
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			送迎時や面談時に、家庭での状況などを聞き取る等している。
	㉜	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			保護者や兄弟など家族で参加できる行事を実施。保護者、きょうだい同士のつながりを持つ機会を提供。同日に保護者会も実施している。

	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			苦情については、苦情解決受付担当者、責任者の設置を、契約時に重要事項説明書で説明している。苦情があった際は、苦情解決規定に則り対応している。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			毎月、月間予定や活動の様子を載せたお知らせを配布している。
	③⑤	個人情報に十分注意しているか	○			利用契約時に、個人情報の取扱いに関する同意書を交わし、同意された範囲内で使用している。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			保護者の状況に配慮しながらも、できる限り直接対話を心かけている。必要に応じて紙面やメールなどを活用している。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	○			事業所に招待する行事は実施していないが、近隣のカフェ、スーパーに出かけるなどして地域とのつながりを構築している。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか		○		緊急時・感染症対応マニュアルは策定しているが、防犯マニュアルは未策定。入居建物の警備員は常駐している。保護者への周知については、保護者会等で周知するよう努める。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			年2回実施。
	④①	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			年1回、全職員参加必須の法人研修を実施。事業所との委託である給食・送迎業者にも実施。研修報告書の提出を義務付けている。
	④②	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			法人として要綱、書式様式を整備している。31年度より、個別支援計画、サービス提供記録への記載、記録を開始していく予定。
	④③	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			アセスメントで情報収集している。調理実習、外食では対応を整えている。現在は、アレルギーの児童はいない。
	④④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			事例発生後、会議にて再発防止策の検討、改善を行い、作成した報告書は閲覧可能にしている。

* 障害のない子どもとの交流は、図書館、親子連れが多く集まる喫茶への外出、公園への散歩で交流する機会をこれまで以上に図っていきます。

* 防犯マニュアルに関しては、法人として策定していきます。